

問題訂正紙

国語 101

注意事項

- 1 試験開始まで、この問題訂正紙の中を見てはいけません。解答開始の指示の後に、訂正の内容を確認してください。
- 2 試験終了後、この問題訂正紙は回収します。

問題訂正

国語 101

第 4 問〔注〕 11

(誤)…… の全般を為す。

(正)…… の全般を指す。

令和八年度入学試験問題

国 語 一〇一

(前期日程)

(注意事項)

- 1 問題冊子および解答用紙は、解答開始の指示があるまで開かないこと。
- 2 問題冊子は1冊、解答用紙は4枚と下書き用紙1枚である。
- 3 解答は、解答用紙の指定された解答箇所を書くこと。指定された解答箇所以外に書いたものは採点しない。また、裏面に解答したのもも採点しない。
- 4 解答開始後、4枚すべての解答用紙の「受験番号」欄に受験番号をはっきりと記入すること。
- 5 配付した問題冊子および用紙はすべて回収する。

第3問、第4問は選択問題である。いずれか一方を選択して解答せよ。

選択した問題の解答用紙の所定欄に○印を記入せよ。

なお、両方に○印を記入した場合、あるいはいずれにも○印を記入していない場合は、ともに採点対象外とする。

国語
問題

第1問

次の文章を読んで、後の設問に答えよ。なお、設問の都合上、原文の一部を改変・省略したところがある。

著作権処理中

著作権処理中

(杉田敦『権力論』による)

- (注)
- 1 チャップリン——チャールズ・チャップリン。イギリスの映画監督・俳優。一八八九年～一九七七年。
 - 2 『モダン・タイムス』——一九三六年に公開された喜劇映画。チャールズ・チャップリンが監督・脚本・主演を務め、機械管理された工場労働の非人間性を風刺した。
 - 3 石川島——現東京都中央区の地名。江戸時代に幕府が、「人足寄場」を設け、住居の無い者や軽犯罪者を収容して労働に従事させた。江戸時代末期には、西洋式の造船所が建設され、一九三〇年代に造船場が移転した後も、工業用地として利用された。
 - 4 ミシエル・フーコー——フランスの哲学者・歴史学者。一九二六年～一九八四年。
 - 5 ベンサム——ジェレミー・ベンサム。イギリスの哲学者・法学者。一七四八年～一八三二年。
- 問1 傍線部①～⑤のカタカナを漢字に直せ。

— 4 —

問2 傍線部(A)「著作権処理中」とあるが、公開処刑にはどのような意味があったか、本文の内容に即して説明せよ。

問3 傍線部(B)「著作権処理中」とはどのような制度か、本文の内容に即して説明せよ。

問4 傍線部(C)「著作権処理中」とあるが、この原理によって工場労働者はどのような状況におかれることになるか、説明せよ。

— 3 —

第2問

次の文章を読んで、後の設問に答えよ。なお、設問の都合上、原文の一部を改変したところがある。

著作権処理中

著作権処理中

- (注)
- 1 ヤマンバ——伝説上、奥山に住み人を食らうという老女の妖怪。
 - 2 キンダーブック——一九二七年に創刊された月刊の幼児向け絵本。
 - 3 馬子——馬をひいて人や荷物を運ぶことを職業とした人。
 - 4 岩見重太郎——安土桃山時代の伝説的な剣豪。
 - 5 つづら——ツツラフジのつるや竹などで編んだふた付きの衣装箱。
 - 6 赤い鳥——一九一八年から一九三六年まで刊行された児童向けの文芸雑誌。
 - 7 小泉八雲——日本に帰化したギリシャ生まれの文学者。代表作として『怪談』が有名。一八五〇年～一九〇四年。
 - 8 マジック・リアリズム——日常にあるものと日常にないものを融合させた芸術表現の技法。
 - 9 クレオール文学——クレオールで書かれた文学。クレオールとは、植民地で入植者の言語と先住者の言語とが混ざって形成された言語の総称。

問1 傍線部(A)「著作権処理中」とあるが、子どもにとって口承の物語はどのようなものか、説明せよ。

問2 傍線部(B)「著作権処理中」とあるが、口承の物語で用いられている言葉の特徴をふまえると、現代の私たちにとって口承の物語はどのようなものか、説明せよ。

問3 傍線部(C)「著作権処理中」について、以下の問いに答えよ。

- (1) 「」の文学で見失われたものは何か、近代文学の特徴をふまえて説明せよ。
- (2) 「著作権処理中」すために、現在の文学ではどのようなことがなされているか、具体的に説明せよ。

第3問、第4問についてはいずれか一方を選択して解答せよ。

第3問 (選択)

次の文章はある物語の一節である。これを読んで、後の設問に答えよ。

ある「女房」の所に恋人である「僧」が泊まりに来た。二人の仲は、「女房」の母である「尼」も承知である。「女房」は白粉(ちまぎ)(顔などに塗って色白にする化粧料)を塗ったつもりで別のものを顔に塗ってしまった。 「僧」は「女房」の顔を見るなり驚いて逃げ去ってしまったが、「女房」にはわけがわからない。

この女房は、この僧かへり来るかと思ひけれども、見えず。母の尼も、人音もせずなりにければ、おぼつかなくて、「御まればいかに」とて障子をあけてみれば、僧はなくて、黒き鬼一人つくとしてありければ、「こはいかに。僧と思ひたれば、鬼の来たりて、わがむすめを一口にくひてけり」と、おそろしく、かなしくて、倒れふしぬ。命もけぬべくぞおほえける。この女房、わが顔のかかるともいかにでか知るべきなれば、母の尼まろびけるをかかへて、「いかに、いかに」といへば、声はわがむすめにありければ、心をしづめて、目を見上げてみるに、なほもとの鬼なり。また声をあげてをめけば、「あなけしからず、なに」とぞや。これはわらははにてさぶらふぞ(注4)「といふに、さすがむすめとおほえければ、おきあがりて、「その顔はいかに」といふに、なにとさぶらふぞ」と問ふときに、鏡をとりてみするに、黒き鬼なり。かげをみて、「われ鬼になりけり」と思ひて、わが身におそれつつ、仰(あご)きにまろびふしぬ。さて、よくよく心をしづめて思ふに、「眉墨をとりたがへてありけるにこそ」と心うへ、あさましくて、水にてあらひなどして、「さても、この僧の逃げ帰りけるもことわりかな」とおほえて、わが身の報(むせ)のほどを悔いかなしみけれども、かひなくてぞありける。この尼、いまはすべきかたなくて、このむすめのなりゆくべきありさまを思ひつ

づけて、泣くよりほかの事なし。かの僧のもとへゆきて、かか事ども、いまはいまほしく思ひけれども、「それもさこそおそろしく思ひたるらめ。またゆきたらば、化け物とこそ思はんずらめ」とて、ひとすぢに身のほど思ひしりて、せんかたなくてぞありける。あはれ、人は何事もかねて用意あるべきことかな。これもその日とききたらば、ないない用意ありて、屏風・油などを支度して、身をもかいつくろひて居たらば、時にあたりてあわてけん越度はなからまし。(中略) むすめ出家して、ふるさともしみうくおほえければ、北山に小野といふ山里に、ことの縁ありけるうへ、爪木(つめぎ)を拾ふたよりも、しかるべく侍りければ、二人ながらかの山里にすみて、ひとへに後の世の勤めをなんし侍りける。

(「掃墨物語絵巻」より。ただし、一部改変)

(注) 1 まれ人——客人。

2 つくとして——ほんやりとして。

3 をめけ——「をめぐ」(叫ぶ)の已然形。

4 わらは——女性の一人称。

5 かげ——鏡に映った姿。

6 眉墨——眉を描く化粧用の墨。

7 身のほど——自分の置かれてある劣った境遇。

8 ないない——人に知られないように。

9 油——部屋の明かり用の油。

10 越度——失敗。

11 爪木——薪くわぎにする小枝。

12 後の世の勤め——来世のための仏道の勤行ごんぎやう。

問1 傍線部①と③をわかりやすく現代語訳せよ。

問2 波線部(A)「おそろしく、かなしくて、倒れふしぬ」と、波線部(B)「わが身におそれつつ、仰きまらるびふしぬ」について、以下の問いに答えよ。

(1) 波線部(A)と波線部(B)はそれぞれ誰の様子か、答えよ。

(2) (1)で答えた波線部(A)の人物がこのような状況になるにあたって、最初にどのような状況を目にしたか、端的に答えよ。

(3) (1)で答えた波線部(A)の人物は、(2)の状況がどういう経緯で起こったかと思ったか説明せよ。

(4) (2)の状況は、実際にはどのような状況であったか、端的に答えよ。

(5) 波線部(A)の後から波線部(B)の前まで、(1)で答えた波線部(B)の人物の状況はどのように推移したか、百字以内にまとめて答えよ。

問3 本文中には、物語の展開ではなく、語り手の感想を書いている部分がある。その部分について、以下の問いに答えよ。

(1) 語り手の感想を書いている部分の最初の三字と最後の三字を抜き出せ。ただし、句読点は除く。

(2) その部分で、語り手は一般論としてどのようなことを述べているか、答えよ。

問4 波線部(C)「ここぞ思はんすらめ」の中から助動詞を二語抜き出し、それぞれの終止形も答えよ。

第3問、第4問についてはいずれか一方を選択して解答せよ。

第4問(選択)

次の文章〔Ⅰ〕〔Ⅱ〕を読んで、後の設問に答えよ。〔Ⅱ〕は、〔Ⅰ〕の説話に対して、柳宗元が加えた論評である。なお、設問の都合上、返り点や送り仮名を省略した所がある。

〔Ⅰ〕

成王^{〔注1〕}与^{〔注2〕}唐叔虞^{〔注3〕}、剪^{〔注4〕}梧桐葉^{〔注5〕}以為^{〔注6〕}珪^{〔注7〕}、而授^{〔注8〕}唐叔虞^{〔注9〕}曰^{〔注10〕}「余^{〔注11〕}以此封^{〔注12〕}汝^{〔注13〕}」、唐叔虞喜^{〔注14〕}以告^{〔注15〕}周公^{〔注16〕}。周公以^{〔注17〕}請^{〔注18〕}曰^{〔注19〕}「天子封^{〔注20〕}虞耶^{〔注21〕}」、成王曰^{〔注22〕}「余^{〔注23〕}一^{〔注24〕}与^{〔注25〕}虞戲^{〔注26〕}也^{〔注27〕}」。周公对^{〔注28〕}曰^{〔注29〕}「臣聞^{〔注30〕}之^{〔注31〕}、天子無^{〔注32〕}戲言^{〔注33〕}」。於是^{〔注34〕}遂封^{〔注35〕}唐叔虞^{〔注36〕}於^{〔注37〕}晋^{〔注38〕}。周公且^{〔注39〕}可^{〔注40〕}謂^{〔注41〕}善說^{〔注42〕}矣^{〔注43〕}。一^{〔注44〕}称^{〔注45〕}而成^{〔注46〕}王益^{〔注47〕}、重^{〔注48〕}言^{〔注49〕}、明^{〔注50〕}愛^{〔注51〕}弟^{〔注52〕}之義^{〔注53〕}、有^{〔注54〕}輔^{〔注55〕}王室^{〔注56〕}之固^{〔注57〕}。

(劉向『說苑』による)

〔Ⅱ〕

周公乃^{〔注58〕}成^{〔注59〕}其^{〔注60〕}不^{〔注61〕}中之戲^{〔注62〕}、以^{〔注63〕}地^{〔注64〕}以^{〔注65〕}人^{〔注66〕}与^{〔注67〕}小弱^{〔注68〕}弟^{〔注69〕}者^{〔注70〕}、為^{〔注71〕}之^{〔注72〕}主^{〔注73〕}、其^{〔注74〕}得^{〔注75〕}為^{〔注76〕}聖^{〔注77〕}乎^{〔注78〕}。且^{〔注79〕}周公以^{〔注80〕}王^{〔注81〕}之言^{〔注82〕}不^{〔注83〕}可^{〔注84〕}苟^{〔注85〕}焉^{〔注86〕}而已^{〔注87〕}、必^{〔注88〕}從^{〔注89〕}而^{〔注90〕}成^{〔注91〕}之^{〔注92〕}耶^{〔注93〕}。設^{〔注94〕}有^{〔注95〕}不^{〔注96〕}幸^{〔注97〕}、王^{〔注98〕}以^{〔注99〕}桐葉^{〔注100〕}戲^{〔注101〕}婦^{〔注102〕}寺^{〔注103〕}、亦^{〔注104〕}將^{〔注105〕}拳^{〔注106〕}而^{〔注107〕}從^{〔注108〕}之^{〔注109〕}乎^{〔注110〕}。凡^{〔注111〕}王者^{〔注112〕}之^{〔注113〕}德^{〔注114〕}在^{〔注115〕}行^{〔注116〕}之^{〔注117〕}何^{〔注118〕}若^{〔注119〕}。設^{〔注120〕}未^{〔注121〕}得^{〔注122〕}其^{〔注123〕}當^{〔注124〕}、雖^{〔注125〕}十^{〔注126〕}易^{〔注127〕}之^{〔注128〕}、不^{〔注129〕}為^{〔注130〕}病^{〔注131〕}。要^{〔注132〕}於^{〔注133〕}其^{〔注134〕}當^{〔注135〕}、不^{〔注136〕}可^{〔注137〕}使^{〔注138〕}易^{〔注139〕}也^{〔注140〕}。而^{〔注141〕}況^{〔注142〕}以^{〔注143〕}其^{〔注144〕}戲^{〔注145〕}乎^{〔注146〕}。若^{〔注147〕}戲^{〔注148〕}而^{〔注149〕}必^{〔注150〕}行^{〔注151〕}之^{〔注152〕}、是^{〔注153〕}周公^{〔注154〕}教^{〔注155〕}王^{〔注156〕}遂^{〔注157〕}過^{〔注158〕}也^{〔注159〕}。

(柳宗元「桐葉封弟弁」による)

〔注〕 1 成王——周王朝の天子。幼くして即位した。周王朝においては、「天子」と「王」は、「天下諸国を治める君主」として、実質的に同義である。

2 唐叔虞——成王の弟。晋国を治めた。

3 燕居——くつろぐこと。

- 4 梧桐——アオギリ科の落葉樹。
- 5 珪——玉でつくった礼器。周王朝では、天子が、王族や功績のある臣下に、諸侯の地位を与えて、一国を代々領有する権利を認めた（封建制）。天子が、封建を行う際には、珪を授与して一国を領有する権利のあかしとした。本文では、幼少の成王と唐叔虞が、梧桐の葉を珪の代わりとしてやりとりしている。
- 6 周公——周王朝の王族。名は旦。成王の叔父にあたり、幼年の成王を補佐した。政治の手腕とすぐれた人格により、後世、聖人であると評価される。
- 7 不中——不適切な。
- 8 為之主——「唐叔虞に諸侯の地位を与えて晋国の君主としたならば」の意。
- 9 苟——いいかげんにする。
- 10 婦寺——女性と宦官（奥向きの用をなす男性）。当時の通念では、女性と宦官のいずれも政治に関与すべきではないとされた。
- 11 行——ここでは、広く「発言・行動」の全般を為す。
- 12 病——さしさわり、弊害。

問1 傍線部①～④をすべて書き下せ。

- 問2 波線部(A)「周公旦可謂善説矣」とは、周公が成王に対して巧みに教え説いたことを称賛した言葉である。【I】では、周公を称賛する内容として、具体的にどのようなことが述べられているか、もつとも適当なものを次のア～カの中から一つ選んで記号で答えよ。
- ア 一度の発言でもって、唐叔虞の言葉を尊重すべきことを教え、弟を大切にするという道理を明らかにし、王室を支える備えを築いた。
- イ 一度の発言でもって、唐叔虞の言葉を尊重すべきことを教え、弟に一国を与えるのが正当であることを明らかにし、王室を支える備えを築いた。
- ウ 一度の発言でもって、周公の進言が重要であることを教え、弟を大切にするという道理を明らかにし、王室を支える備えを築いた。
- エ 一度の発言でもって、周公の進言が重要であることを教え、弟に一国を与えるのが正当であることを明らかにし、王室を支える備えを築いた。
- オ 一度の発言でもって、天子は発言を慎重にすべきであることを教え、弟を大切にするという道理を明らかにし、王室を支える備えを築いた。
- カ 一度の発言でもって、天子は発言を慎重にすべきであることを教え、弟に一国を与えるのが正当であることを明らかにし、王室を支える備えを築いた。

問3

次の書き下し文を参考にして、波線部(B)「設未得其当、雖十易之、不為病」に返り点を加え（振り仮名や送り仮名はつけなくてよい）、現代語訳せよ。

設し未だ其の当を得ざれば、十たび之を易ふると雖も、病と為さず。

問 4 波線部(C)「若戯而必行之、是周公教王遂過也」を書き下し、現代語訳せよ。

問 5 王(天子)の言動がどうあるべきかについて、【Ⅱ】ではどのような考えが述べられているか、【Ⅰ】の内容に対する批判とあわせて説明せよ。

国語 一〇一 (解答用紙 その1)

第1問

問 1	
④	①
⑤	②
	③

問 2			

問 3			

問 4			

小 計

受 験 番 号

国語 一〇一 (解答用紙 その3)

第3問を選択する者は下の空欄に○印を記入せよ。

第3問 (選択)

問1		
③	②	①

問2				
(5)	(4)	(3)	(2)	(1)
				(A)
				(B)

問3	
(2)	(1)
	s

問4	
助動詞 (C)の中の	助動詞 (C)の中の
終止形	終止形

小計

受験番号

国語 一〇一 (解答用紙 その4)

第4問を選択する者は下の空欄に○印を記入せよ。

第4問 (選択)

問 1			
④	③	②	①

問 2

問 3	
現代語訳	返り点 設 未 得 其 当、 雖 十 易 之、 不 為 病

問 4	
現代語訳	書き下し文

問 5

受 験 番 号

小 計

